

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270401126		
法人名	株式会社マウントバード		
事業所名	グループホームみどりの家 B棟		
所在地	千葉県千葉市緑区誉田町2-11-105		
自己評価作成日	令和5年12月20日	評価結果市町村受理日	令和6年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和6年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分で出来る事を奪わずに「どうすれば出来るのか」を考えて入居者様が尊厳を持ち、日常生活を送れるように関わりながら、自立支援を実践出来るように努めています。
 入居者様、職員が既存1階や2階との行き来を増やして、それぞれが助け合いながら連携をとっています。又、「笑門来福」の理念を入居者様、ご家族、職員、皆で共感・共有出来るような支援を心がけ継続しています。
 地域との交流がコロナ禍において滞っていましたが、新型コロナウイルスの5類移行に伴い、外出や地域との交流に向けた準備をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	みどりの家の理念「笑門来福」の通り、入居者様職員共に笑顔で過ごせるようにしています。又、法人の理念である「自立と愛」に一層の力を入れての支援が出来るよう実践しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスが5類へ移行されたので、地域の中で暮らす一員として生活出来るようにする為に準備をしています。町内会に入っているのので、回覧板や募金の時などに交流をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	障害者雇用の職員がいるため、就労支援をしている学校と毎月面談と交流を行っています。又、介護を学んでいる実習生の受け入れを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面での運営推進会議を再開しました。以前には無かった近隣の介護施設の施設長の参加もありました。ご家族から頂戴した意見を参考にした取り組みも行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に管理者が取り組んでいる。障害者雇用や生活保護の入居者様もいるので障害支援課、援護課や案件相談で包括支援センターへ相談等行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束廃止委員会を開催。全施設から担当者が集まり、委員会での内容をフロア会議で報告している。又研修を行い、身体拘束廃止に務めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として虐待防止委員会を3か月に1度開催。全施設から担当者が集まり、委員会での内容をフロア会議で報告している。又、研修を行い、虐待防止に務めている。各ユニットでそれぞれの目標を掲げて、虐待の目を摘む取り組みを行った。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年の5月、2階に成年後見人が付いている方の入居があり、定期的に来所もあるので理解している。制度についても後見人が丁寧に説明してくれた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約はホーム長同席で管理者が行っている。契約前の見学や面談時、実際の契約の際に、分かり易い説明を心掛けて、不安や疑問を解消した上で契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等でご家族とのやり取りがあった際に、意見や要望があればお話をしている。又、運営推進会議に参加頂いた際に、意見を求めて、反映できるよう努力している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやフロア会議で意見交換をおこなっている。職員が話しやすい環境作りを心がけ、定期的に個別面談を行って意見や提案を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員と個別に話をする機会を設け、現状の把握や要望を傾聴し各々が向上心を持ち、やりがいを持ち働ける環境の整備に努めている。本部に提出する面談シートも活用して定期的に個別面談、ラインでの個別の相談も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加可能な職員が、順番に本部の内部研修に参加出来るようにしている。役割や現状に合った研修には当該職員が研修を受けられるようにしている。又、資格取得も促しており、取得の際はシフトに配慮してスキルの向上を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が今年管理者研修で一緒になった近隣の施設の方と名刺交換をさせて頂いた。フロア会議の際に、他施設の施設長に参加してもらい、交流の機会を作っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で、本人の希望や必要としていることを尋ねて、安心して暮らせる環境作りに努めている。入居後もコミュニケーションを取るようにして、不安を解消できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に不安に思う事や要望をご家族等に伺って、提供するサービスを説明して安心して入居して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中での要望や必要とするケアを考え、場合により、グループホーム以外のサービスを提案している。必要であれば医療保険を使ったデイケアの利用も提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がやってしまうのではなく、入居者様それぞれが出来ることをやって頂きながら、共に生活している者同士の関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に病院での定期受診に行ってもらったり、日頃の様子を法人のホームページに掲載してご覧頂いたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人数や、飲食はしない等の制限はあるが、ホーム内での面会や電話での通話、LINEを利用して写真や動画を見て頂いたり、ビデオ通話機能を使ってのやり取りをして頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの席は、本人の要望や入居様の相性を見て調整している。必要に応じて間に職員が入りコミュニケーションが取れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には「何かあれば連絡して下さい」とお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の意向や希望を聞き取り、申し送りやフロア会議で共有して支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談にてご家族様からこれまでの生活歴を聞きケアマネが付いてればフェイスシートやサマリーも貰い把握に努め、入居後も本人との会話の中から情報を集めるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や申し送りで、一人ひとりの現状の把握に努めている。フロア会議での話し合いの中で気になることへの対応を考えている。又、出来そうな事があったり本人の意向があれば安全に配慮しながら、実際に行って頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様や家族の要望、往診時の主治医からの意見や看護師、薬剤師の意見も貰い、毎月のフロア会議での話し合いで出た意見やアイデアを基にして、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報や介護記録への記入を行う事で職員が情報を共有して、実践の結果から介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対応できるよう個別の買い物や散歩、医療保険を使ったデイケアなどを希望する方に提案等、取り組んでいる。 買い物の希望があれば、職員が同行出来る時には一緒に買い物に出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の消防署立ち合いの元で、職員と参加可能な入居者様が参加して、避難訓練を行っている。前回の訓練では、職員が実際に119番通報をすする訓練も行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が定期で往診に来て利用者様それぞれの状態を共有している。他に皮膚科や整形外科も往診が入っている。訪問歯科も往診に来ていて、要望や必要に応じて歯科利用を開始出来る体制を整えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	弊社所属の看護師が毎週来所。職員からの話や、連絡ノートで入居者様それぞれの状態を共有している。記録の電子化に伴い、ホーム外からでも常に記録が見られるようにした。又、往診時に立ち合いも行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、病院の担当者(ソーシャルワーカー)等と連絡を取り、早期退院に向けた準備を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時に契約書に重度化における指針についてのページがあり、必ず重度化した時や看取りケア状態になった場合について家族に説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急通報の手順や連絡先をマニュアル化し、事務所内に掲示している。 法人内で、普通救命講習(外部委託)を開催。ホームからも参加して、会議での報告を通じて情報を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の消防署の立ち合いの元、防災訓練を行っている。又、発電機や備蓄品を拡充し災害対策を行って		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を傷つけないような言葉使いや、関わり方を意識している。又、それぞれのプライバシーに配慮して支援を行う様に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴準備時には可能な方には自分で服を選択して頂いている。又、お茶の時間には飲みたい物を選択して飲んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様それぞれに、毎日のルーティンはあるがその日の体調にあわせたり、本人の意思ややりたいことができるよう心がけて関わっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容の際には、本人の希望の髪形にしている。又、本人が希望する化粧水等を使って頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて、職員と一緒に野菜を切り、調理をして、盛り付けを行い、食後には下膳や食器洗い等を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	キザミやミキサー食などの形態、量をそれぞれの利用者様に合わせている。食事量や水分量も把握できるよう毎日都度記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。ご自分でケアしきれない方は介助にて行っている。又、本人の状態に合わせて歯ブラシと口腔ケア用のスポンジを使い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日記録している排泄表で、排泄の状態を見て失敗を未然に防げる様にトイレの声掛けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を一目で分かるよう表に記入して少ない方には摂取を促したり、体操や散歩の声掛けを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入りたい気分ではない時もあり、そんな時は清拭着替えにだけにして、無理強いをしないようにしている。庭に柚子がたくさん取れるので柚子湯が喜ばれている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意向に合わせて入床して頂いている。就前薬も本人が寝たい(飲みたい)タイミングで服用して頂いている。又、本人の希望で、居室ではなく共有ソファで昼寝をしている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師やかかりつけ薬局の薬剤師に薬の説明を聞き、飲みにくい利用者様の薬は相談して形状を変えるなど個々に合わせている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前に興味や好きだった事などをお伺いし、入居後も継続の支援を行っている。本人の能力に応じて、職員や他の入居者様と一緒に家事を行う事で能力を発揮して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に近所へ買い物や散歩に出かけたり、ドライブをしたりしている。デイケアへ通ったり、ご家族と定期的受診に行っている方もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物へ出かけて衣類や生活用品を購入したり、本人の希望する物を職員が購入する事で自身のお金を使って物を買う支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ラインのビデオ通話機能でご家族と連絡を取っていただいたり、通常の電話を使って通話ができるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるようにフロアの飾りを制作して貰い一緒に飾っています。室温は適温か、居室やフロアは暗くなっていないか、こまめに調整するようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のフロアでは相性を見て自席を配置し、ソファも活用しながら談話できるよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使っていた家具をそのまま使っていたり、居室で気兼ねなく好きなTV番組を観て過ごしたり出来るようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線には物を置かないようにし、転倒防止に努めている。トイレがわかるように文字と絵で掲示して、1人でも行ける人には行ってもらっている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと